【第667号】
発　行　日　2026年3月14日
発行責任者　喬木村公民館長
林　　司
編集責任者　公民館広報部長
池田　英明
印　　刷　龍共印刷株式会社

公民館報 たかぎ

写真：喬木カメラクラブ　　原　一
題字：吉川　照子　（100歳）

プロジェクトX　～みんなで 喬木村 FUTURE 計画 やらまいか～

内容でフォーラムを開催しました。
校生も参加する「美し郷デザイン室」のメンバーをゲストとしてお呼びし、デザイン室に参ました。
いくか」意見交換し、ふるさと喬木の未来を切り拓く「キャッチコピー」をつくりました。
「分館での活動に活かしていきたい」など前向きな声が聞かれました。

▲キャッチコピーを考える

村の魅力や誇り、
これからの喬木を考え、
こんな言葉が交わされました。

県　三遠南信
うまい　阿島獅子
携わる
程よい
近い　地域　見える　夕日
良い
然　熱い　山　祭り
暖かい
豊か
災害が少ない
ふるさと祭り
ア
阿島傘
かわいい
多い
田畑　阿島　農業　残る
つながり　雪が少ない

『心と体を継なぐ Well Being な』
喬木村

）エネルギー開発』
喬木村

『子どもから大人まで安心安全で
心地よく暮らせる自然豊かな』
喬木村

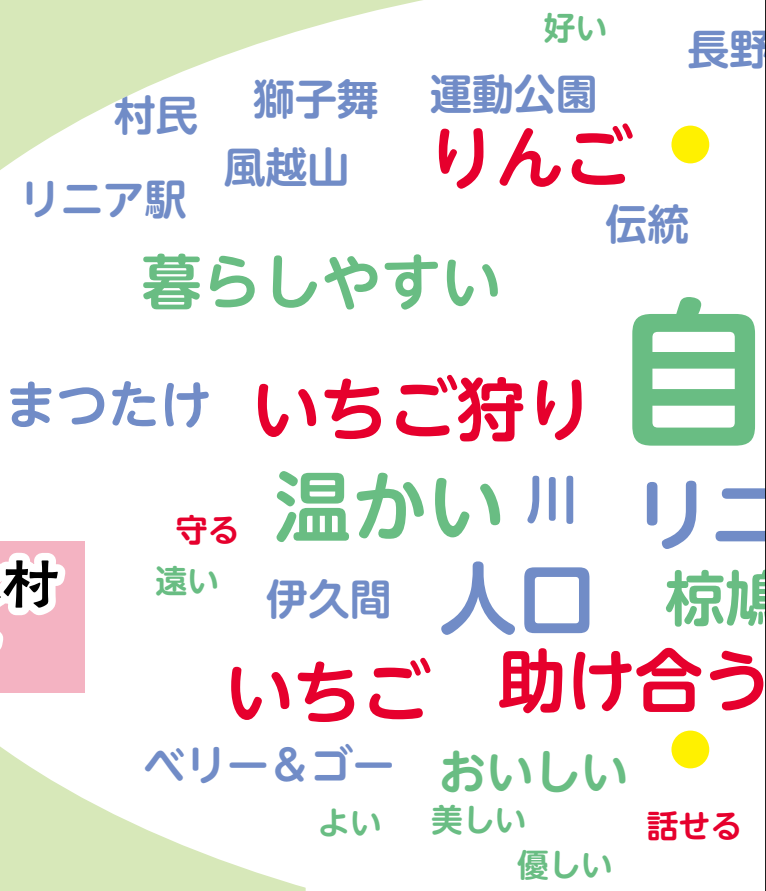
▲ゲスト：美し郷デザイン室メンバー

第41回
公民館ふるさとづくり
フォーラム
2/8

喬木村公民館の

今年度は、将来の喬木村を見据え、住民の方が村のことを自由に語り合い学びを深める
フォーラム前半では村のブランドづくりを進める「喬木みらいプロジェクト」の中核で高
加した理由やブランドづくりを進めていく過程での気づきや感じたことをお話していただき
後半は、グループに分かれ、村の魅力・誇りを考えた上で「どのような地域をつくって
参加者からは「楽しく・にぎやかに意見交換ができた」「色々な意見が聞けて楽しかった」

成果を発表するAグループ



『みんなが集まる美し郷』 喬木村
『感動・情熱・絆』 喬木村

Bグループ

『自然と伝統から育まれるコミュニティから未来に向かう美し郷』 喬木村

『無限なる地域（人

2026年度 喬木村公民館活動計画

部員募集中です!

『ここちよい つながり』をつくりそれを広げることを目指して人づくり、地域づくりにつながる公民館となるよう多彩なイベントや講座を企画しています。ぜひご参加ください。

公民館活動を盛り上げていただける部員さんも大募集中です！企画を考えたり、お互い協力し合ったり楽しいこといっぱいです！

広報部

- 館報の隔月発行（5.7.9.11.1.3月　全カラー版）
- 縮刷版　第２輯・第３輯・第４輯　在庫販売
- 公民館活動等の取材

文化部

- 楽遊塾　川遊び体験　７月18日（土）
  餅つき・鏡餅づくり体験　12月６日（日）
- 絵本の読み聞かせ（７月.3月）
- Let's Dancing（喬木まつり）
  ９月26日（土）
- 喬木村芸術祭　文化作品展示企画運営
  11月３日（火）～８日（日）
- ふるさとづくりフォーラム　２月７日（日）

▲喬木まつりでLet's Dancing

スポーツ部

- 春のスポーツ交流会（ペタンク）企画運営　５月24日(日)
- 喬木村駅伝大会企画運営　11月15日(日)
- 冬のスポーツ交流会企画運営　12月13日(日)

【総合芸術体験】 公民館自主企画講座

「まぼろしの鳥」ってどんないろ？
～アルコールインクでデザインしてみよう～

12/20

この企画は椋鳩十先生のお話「まぼろしの鳥」から始まりました。このお話は椋先生が幼少期の体験が元になっています。

そこから、「子どもたちにどんな色の鳥だったのか想像して色をつけてもらいたいね！」となり、朗読、音楽、ダンス、造形作家が集まり総合芸術体験企画になりました。参加者は小学生～大人までが集まり、朗読を聞いてからアルコールインクで色をつけていきます。朗読では効果音やメロディ、手話、ダンスも取り入れました。体験者のほとんどがアルコールインクを使うのが初めてでしたが、講師の方の説明を聞いてやってみるととても楽しく、みなさん思い思いにデザインしていました。最後にデザインした物をスライドに写しまぼろしの鳥に色をつけました。「これ私の！」「きれい！」の声が聞こえたり、今回絵を描くことや作ることが好きで申し込んでくれた方から「総合芸術を体験し音楽や手話にも興味が出た。」などの感想ももらいました。これからも喬木村で芸術体験ができるイベントが増えると嬉しいです。

企画者：吉川　千恵

公民館自主企画講座では、暮らしの中で感じる「こんなことを学びたい」「この人の話をぜひ聞いてみたい!」といった思いをきっかけに周りを巻き込みながら地域の中で主体的に活動をしようとする人を支援しています。

【自主企画講座応募要項】

対　　象●村内に居住する個人、団体
　　公民館各分館
支援内容●上限５万円

詳しくは喬木村公民館まで
お問い合わせください。

各種報告会・激励会を開催

第30回記念長野県現代書藝全国展

長野県知事賞	**木下　里依紗**さん（中３）
長野県教育委員会賞	**松島　杏佳**さん（中２）
長野県教育委員会賞	**山越　穂乃**さん（小３）
長野県現代書藝協会賞	**大原　未来**さん（中１）

●宮下　昊翔さん（高３）●

宮下昊翔さん（飯田 OIDE 長姫高・原動機部）が「2025 Ene-1 MOTEGI GP」(11/9) に出場し、「KV-40」部門の「Div1」にドライバーとして出場し総合優勝を果たしました。

●日比　千優さん（中３）●

日比千優さん（喬木中・ポミエ新体操クラブ所属）が 2025 全日本ジュニア新体操チャレンジカップ (12/1) に出場し第2位の成績を収めました。

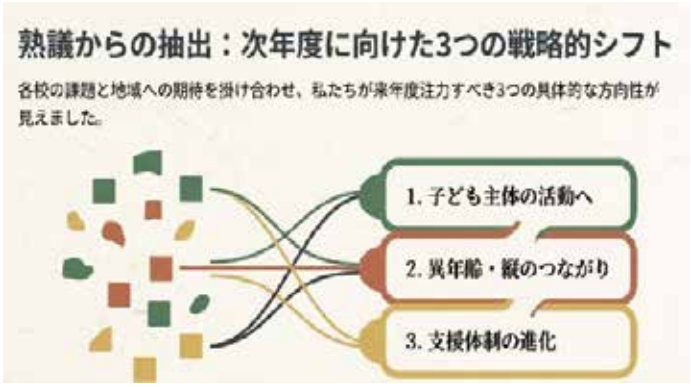
●市瀬　光一さん（薬剤師）●

42 年間にわたり喬木村の学校薬剤師を務められた市瀬光一さんが、学校保健の普及と向上に尽力された功績が評価され「学校保健及び学校安全表彰式」(11/20) で文部科学大臣表彰を受けられました。

学校運営協議会合同会議
（令和7年度喬木村地域学校協働活動実施報告と次年度の方向）

去る２月26日、第一小、第二小、喬木中の学校運営協議会のみなさん26名が合同会議を開き、本年度の地域と学校が協働して行った活動が報告され、令和８年度の方向について考え合いました。第一小からは、総合的な学習で行った４年生の阿島獅子活動等での子どもの成長、第二小からは、陶芸・銀嶺太鼓・山学習など多彩な体験学習と地域の方との日常的な交流、中学からは伊久間探検・うまいもん土曜夜市・喬木まつりへの参加、村のフォトブック作成から自分たちでやり切る成功体験等について報告がありました。

次年度は、「**異年齢の縦のつながり**：憧れの先輩の創出、



「**子ども主体の活動へ**：受動的な体験から主体的な運営へ」「**支援体制の進化**：子どもが挑戦できる余白と舞台の用意」などの視点を持ち、地域と学校が一体となり活動の幅を広げて行くことが確認されました。

令和7年度 第３回公民館平和学習会

椋鳩十が「動物物語」に込めた祈り
～戦中・戦後の動物物語をたどって～

2/28 開催

前椋鳩十記念図書館長
菅沼利光氏　講演会

講師の菅沼利光さんは、豊富な資料をもとに、椋鳩十の戦中・戦後の作品を通して、その生き方と苦悩や葛藤を丁寧に語られ、五〇名近い参加者は感動とともに、戦争とは何かを考え、平和への願いを確かめる有意義な学習会となりました。

…昭和八年、自然と自由を愛した椋鳩十は、山の小説『山窩物語』を自費出版し一躍注目されたが、治安維持法の下、椋作品も言論統制の対象となった。その後、椋鳩十は、「死ぬことが名誉」とされた戦時下でも、『大造爺さんと雁』などの動物物語に「いのちの尊さ」を込めて発表した。しかし、公職にあり家族も守らなければならなかった椋鳩十は、「聖戦遂行」「皇国民育成」という時代の流れに、真正面からは逆らえず、本名久保田彦穂の名で、ルポルタージュ『軍神に続く横山少年團』を書いた。戦後、椋鳩十は、敗戦から二五年を経た六五歳のときに、『マヤの一生』を発表した。そこには、戦争が如何に人の心を変えていくのか、同時にマヤの姿を通して愛する者を信じる真実の姿が描かれている。…

講演の最後は、「児童文学は、あたため合う心と、不正なものへの怒りの心を燃やしうる勇気、この理想に向かう祈りが込められている」との椋鳩十の言葉で結ばれました。

【参加者の感想】

「歴史に学び、二度と戦争への道を歩まないようにしなければと強く思う」「幼い頃、『マヤの一生』を読んで、当時はわからなかったが、今は、はっきりわかる。戦争は人間を狂気に変える。今、日常のなかに戦争が見えるようで怖い。日本が、世界が、人間が、狂気にならないようにしたい」。

▲講師　前椋鳩十記念図書館長
菅沼利光氏

喬木村俳句会　如月句会　詠草

初場所や華やぎてをり桟敷席　木下　瑞恵
寒行の鈴の音近し僧を待つ

母摘みし椀いっぱいの薺粥　矢澤恵美子
雪だるま幼子の手に光浴び

一輪に時を忘れて白椿　松島みのり
春を待つ其々の道余香かな

薄氷やサクッサクッと靴底に　宮島　高枝
杖頼り投ず一票春浅し

経唱ふ火鉢のやかん山の寺　村山たか子
茶を交わす二人の影や日向ぼこ

おでん鍋囲む笑顔はお月様　原　美恵子
夫がいて会話の弾む春炬燵

この平和手放さぬよう初御空　松葉　孝子
せせらぎの輪唱となり寒明ける

立春や上着一枚脱ぎ置きて　市橋　ヨリ
春の寄席ひょっとこ踊り腰の振り

亡き僧の光りのごとき残り柿　吉川てる子
反核を命とめざす百歳の春

たかぎ短歌会　如月歌会　詠草

購いし赤き長靴履いてみる畑仕事の相棒として　内山　和子
二十代にて渡米せし大叔父の心根想う遥かなれども　木林　睦枝
初場所も優勝力士はウクライナ礼儀正しい二十一歳　市瀬　准子
稀に見る今年の南天華やかに寒さ味方にここぞと映える　内山　貴子
ぽかぽかと暖まる風呂有難し亡夫の遺しし軒に積む薪　木下　寿子
願い事だるまの裏に書き留めて家内安全目玉を入れる　小椋　りよ
裸木のてっぺん高き木守り柿鳥も突かず干からびしまま　知久　美子
成人の孫を囲みてジジババ等祝いの膳にうから集いぬ　和田　京子
嫁らにもささやかなれどお年玉喜ぶ顔を思い浮かべて　田中　妙子
葉は落ちて柿の実ひとつ枝の先鴨の啄む声は賑やか　塩澤真由美
見るたびに天竜川の川底浅くなり春の作付け気にかかる日々　元島　康子
献血も保険も疾うに断られ残るは一つ献体がある　福澤　亀人

富田カルタ会
1/25 実施

去る1月25日、富田陶芸館で富田育成会のカルタ会が行われ、幼児から中学生、大人まで50名程が集まった。カルタや坊主めくり、将棋など時間まで楽しんだ後、今年は日赤奉仕団が炊き出し訓練も兼ねて参加したいとの申し出もあり、団長の小池伊佐子さんから防災豆知識を聞き、振る舞われたおにぎりと豚汁をいただいた。育成会会長の福澤賢司さんは、想定よりたくさんの子どもが参加してくれて驚いたが、賑やかに行えて良かったと語り、子どもたちも楽しかったと笑顔を見せていた。

「あのとき」「このとき」

公民館長

もう先月のことになってしまうが、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックが行われた。四年に一度という長いスパンを経て行われるから、当然選手としての絶頂期に参加できないこともあろうし、怪我や病気等が原因で涙をのむ事もある。

スキージャンプで野沢温泉村出身の丸山希選手もその一人。21年10月の全日本選手権で左膝前十字靱帯・半月板の損傷、大腿骨腓骨挫傷の重傷を負う。その前シーズンでは、世界選手権個人や団体競技で高梨沙羅選手らと上位を伺う位置にいた。しかし、この怪我により22年の北京五輪への道が閉ざされる。社会人になったばかりで成果を求められる彼女にとって相当の悔しさがあったことだろう。

それでも高校生の時に他界した母からの「一番になりなさい」の言葉を胸に、一年間必死にリハビリに専念。23年冬のワールドカップで個人2位と再び活躍の場を広げ、ミラノに続くこととなる。

スノーボードハーフパイプの平野歩夢選手も驚異的な精神力の持ち主だ。一月に激しく転倒し骨盤右腸骨や鼻骨の骨折を負ってもなお、決勝に残るほどの気概と挑戦する気迫をみせてくれた。それを、表情に表さず淡々と語る27歳の青年の姿にも感動する。昨年事故で重傷を負ったスピードスケートの新濱選手もしかり。

五輪に出場できるだけでもすごいこと。その裏にどれだけの努力と苦しみ、支えがあったのか。それらを思いながら早朝のテレビ前でこぶしを握っていた。

（林）

お知らせ

市町村対抗駅伝

日　時：令和8年4月25日（土）

会　場：やまびこドーム周辺

出　場：中学生以上男女、小学生

春のスポーツ交流会

日　時：令和8年5月24日（日）

場　所：第一小学校グラウンド

内　容：ペタンク

分館長・主事会

日　時：令和8年4月8日（水）

会　場：福祉センター多目的ホール

お問合せ　喬木村公民館　0265-33-2002

今回の表紙

題字

吉川　照子さん

宅老所に週３回お元気に通われながらも「100歳の思いをつづる一句かな」の思いで俳句をつくっておられます。職員の作った俳句も手直しして下さいます。

（宅老所職員より）

写真

原　一さん（喬木カメラクラブ）

春の光の中でミツバチが動き出した！

編集後記

日本選手団が史上最多メダル獲得で幕を閉じたミラノ・コルティナ冬季五輪。

メダル獲得に至らなかった選手も含め、多くの感動を与えてくれたことは記憶に新しい。安堵や感動の涙、或いは悔しさの涙、各々に其々の物語が存在している。

取材に対し口にした感謝の言葉の数々は、アスリートとして一流選手であることは言うまでもないが、人間としての魂のステージも一流であることの証だ。

平和の祭典でもある五輪を通じて、国を越えて互いを認め合うことの大切さを、私たちは学ばなければならない。

ご意見・ご感想お待ちしています

館報を読んで思ったこと、感想をお寄せください。寄稿も大歓迎です！
喬木村の公民館報をみんなで作っていきましょう！

☎ 0265-33-2002
mail：syakai@vill.takagi.lg.jp